

夢は叶うもの 思い強ければ

岩崎 好江



「いつか北海道で暮らしてみたい」という二十代からの夢を抱きつつ、デパートでの北海道展やテレビ番組や誌面で資料を作り、夢を膨らませて四十年間。七年前やつと念願叶い夢のバルーンのボックスに乗り今年も大空町女満別へ舞い降りました。

ここは道東網走の隣町、オホーツクブルー澄み切った大空の下、広大なビート畑や小豆畑は今緑の絨毯で、ジャガ芋畑は白やピンクの花が一面に咲き、刈入れ間近の秋蒔き小麦は黄金色の浪を打ってメルヘンの世界です。

黒澤明監督の映画「夢シリーズ」の「カラス

の麦畑」の撮影場所となったオヴェールの丘は、ゴツホと縁の深いフランスのオヴェール地方の風景と酷似していると即決されたとか、近くの朝日展望台の周りには一面ヒマワリが咲き、ゴツホが自殺した七月二十七日にはギリシャ風の駅舎の前でワインとフランスパンのゴツホ祭が催されて花と音楽の素敵な町です。

一年だけのつもりが滞在してみると見る物、聴く事、食する物全て感動、感激の連続で北の大地の魅力にとりつかれ六年目の夏を過こしてしまいました。長い冬の明けた北国の夏の催しものはパワフルで興味深く、多くの講演もあり、先日は大野勝彦さんの講演で衝撃的な感動を受けました。

大野さんは熊本県在住の六十七才、平成九年四十五才の時トラックターで両手を切断し、義手で画に感じた事を詩や短い言葉にし、そ

の一枚、一枚、それぞれが胸にズキンと響いてきます。肘から七センチと十三センチのところから切断するという、思出しても辛かった時代や、本当の強さを教えてくれた母の愛等、ユーモアを交えて笑顔ではなされました。

美術館を作りたい、美術館を作る、と口ぐせのように云い思い続けて十年。まさかの連続でありえない事が現実として形をなし夢が叶い、阿蘇に「丘の上大野美術館」が完成し、北海道にも富良野の近く、パッチワーク風の丘の町美瑛の閉校した小学校の跡地に、鹿児島出身の榎孝明さんと大野さんとの二人の美術館があります。

夢は叶うもの、理屈も何もない、強く思うこと、諦めないことだと農業青年だった無骨な体つきと輝く瞳で語られると障害をバネに辛かった話も逆に。パワーを戴き、熊本訛を北の地で聴く親密感と新鮮な感動を受けました。

顔に似合った人生が待っている笑顔・お金の使い処・時間の使い処・命の使い処にも共感し、ふと入来薪能の事が頭をよぎり入来持つ歴史の品格、雰囲気がこの催しに最適と奮闘されて実現し、家計にも多大の影響もありながら七回も開催された入来院貞子様の心意気はまさに「夢は叶う、思い強ければ」に共通するものと改めて敬服しました。人生後半が面白い、味が出るのはこれからと私も北での魅力を充分満喫し、夢を夢のままにすることなく笑顔の日々をすごしたいと思います。

北の大地便り

